シルスト見エ、ソノ旗ヲ竪ツ、然ドモ此船行ノ前後、已ニ數艘通船セリ、因テいろはノ全キヲ見ズ、

〔後見草下〕御郡代伊奈半左衞門殿、生年二十四歳なりしを、從五位下攝津守に任じ、米穀運送の總司となし給へり、〇中略扨其時のありさまは、船の印に伊奈といふ文字、白字に赤く染出し、船毎に押立しは、秋の紅葉の浮ぶが如し、

〔御書付留〕丑〇天保十二年十二月十七日

水野越前守殿御渡

町奉行江

菱垣船積荷物之儀、規定有之之處、此度問屋組合等令停止、諸品素人直賣買、勝手次第之旨申渡候に付而は、菱垣、樽船積荷物之儀も、向後是迄之規定に不拘、荷主相對次第、辨理之方江積込、無差支樣運送可致候、尤菱垣之方は、文政之度、紀伊殿より貸渡有之之候天目船印、差障候儀有之之候間、以來相用申間敷、右船印、早々紀伊殿江返上可致旨可被申渡候、

十二月

〔德川禁令考三十八船艦〕安政元寅年七月九日

船印之儀ニ付御觸書

三奉行江

伊勢守殿御渡

大船製造ニ付而ハ、異國船ニ不紛樣、日本總船印ハ、白地日之丸幟相用ひ候樣被仰出候、且又公儀御船之儀ハ、白紺布交之吹貫、帆中柱江相建、帆之儀ハ、白地中黑、被仰付候條、諸家ニおゐても白帆ハ不相用、遠方ニ而も見分り候帆印、銘々勝手次第ニ相用可申、尤帆印幷其家々船印をも、兼而書出置候樣可被致候、

右大船之儀、平常廻米、其外運送ニ相用候儀、勝手次第ニ候得共、出來之上ハ、乘組人數、幷海路乘筋